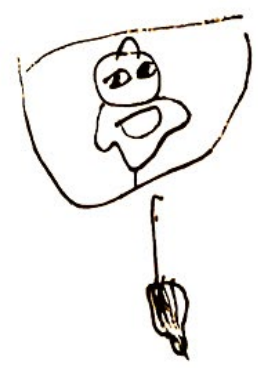


塩野目 和希
 よまたち美肌通
 信月号♡
 138



January

あけましておめでとうございます!

今月号のとまたち美肌通信の表紙は、

日本一の富士山の頂上での

初日の出を楽しみ男の子!!!

お年玉やたこもあって楽しそうな

お正月ですね😊

プロサッカーの試合を見る事

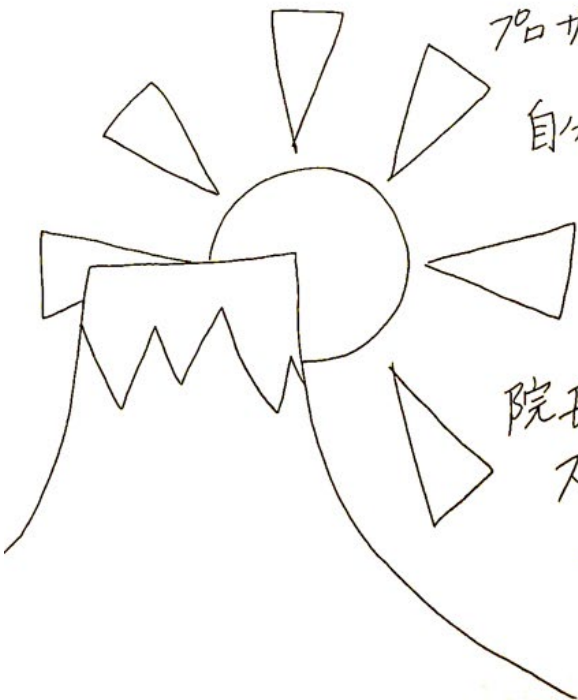
自分もサッカーをする事も

好きな男の子が描いて
くださいました!

院長はじめ

スタッフ一同バカリ

感謝いたします。



人類の生活様式を2年に渡り変えてきた、COVID-19に対する経口治療薬が昨年(2021)末に米国のFDAで承認された。一つはファイザーが開発したパクスロビドであり、一方はメルクが開発したモルヌピラビルである。パクスロビドは12才以上に許可され、その効果は入院及び死亡するリスクを90%低下させる事が期待され、モルヌピラビルは重症化リスクの高い成人に対して適応され、入院及び死亡するリスクを30%低下させる効果が期待出来るとしている。

一方本邦に目を転じると、塩野義製薬が開発した経口内服薬は、感染の初期月に1日1回5日間内服することにより、体内でのウイルスの増殖を抑制出来るとし、変異株であるオミクロンに対しても、効果を示すことが社内実験にて証明出来たとし、既に生産を開始したと報じられている。

しかしこれらの治療薬にも問題がない訳ではない。ウクチンがそうであった様に、必ず副作用や投薬による死亡例も、一定数発生するものと想像するに困難ではない。その恩恵を受ける者がいる一方で、一定数の犠牲も覚悟しなくてはならない事も事実である。昨年末、本邦でもオミクロン株の市中感染が確認された。現状徐々に感染者が再上昇傾向を示し、

2022年年始のヒトの物重力によって、いつ再爆発
が起きるか分からない。我々は常に自制を持た
ねばならない。

かの一休禪師(宗純)は、正月に「門松は冥土の
旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」という句
を詠みました。この意味する所は「新しい年を迎える
ということは、死に一步近づくということ。正月の何
かめでたいのか」ということです。

禪師はドクロを杖にくくりつけ、京都の町を一人正月
に練り歩いたそうです。この奇行には次の様な意味が
あったと伝えられています。人は誰もが必ず死ぬ。それは
今日や明日かも知れない。生きるということ・死ぬというこ
とは常に背中合わせである。皆が一斉に年をとる正月こそ
死というものをしっかりと認識しなければならぬ。
(昔は年令を数え年でカウントしていた)

いつ死ぬか分からないのが人生。だからこそ、今日一日を
一所懸命に生きなければならぬ。そういう深いメッセージ
があったのです。

同様に、2022年の正月だからといって、うかれホーンで生
活していると昨年後半にヨーロッパやアメリカで猛威を振るっ
たオミクロン株や更なる新たな変異株に、この日本が襲わ
れる事のない様、気を引き締めなければならぬよと、
一休禪師は我々に示しているのだらうと、年頭に
思うのである。

院長、拝